

「社会保障・税一体改革」をやめさせ、応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年6月11日 北海道社会保障推進協議会 TEL:011-758-2648 FAX:011-758-4666

第19回定期総会・講演会に80人

「一体改革」阻止へ、今こそ全力を

9日、札幌市内で第19回定期総会を開催しました。総会では、消費税増税を柱とする「一体改革」法案の国会審議、大飯原発再稼働という国の行く末を左右する重大問題が大きな山場を迎えている中で、国民のいのちと暮らしを守り抜くために全力で奮闘することを確認しあいました。

討議では、「精神障害者の交通費助成のとりくみに引き続きの支援を」（障道協）「若年の過労自殺に関する相談が相次いでいる。過労死をなくすためのとりくみが急がれる」（いの健センター）「市民の署名運動で国保料引き下げを実現した」（小樽社保協）など、各地・分野のたたかひが交流されました。

新会長に大橋晃さん

新年度の役員では、10年間会長の任を務められた黒川一郎さん（札幌医大名誉教授）が勇退され、新会長に大橋晃さん（勤医協中央病院名誉院長）が選出されました。大橋さんは「今も外来の現場に出て、患者・地域住民の生活困難を肌で感じています。24年間の道議の経験も生かして、みなさんと一緒にがんばっていきたい」とあいさつしました。

多層的なセーフティネットの整備を

総会に先立って行われた記念講演会では、嶋田佳広さん（札幌学院大学准教授）が「国民生活と現代型セーフティネットの動向」と題して講演。今社会問題となっている生活保護をめぐる、「利用者の生活費に対する扶助は1兆円に過ぎず、『生活保護が財政を圧迫している』事実はない」「諸外国と比較しても圧倒的に生活保護利用者は少なく、今後増えていくことは明らか」としたうえで、「生活保護制度の拡充とともに、年金・医療・福祉制度など多層的なセーフティネットの整備が急がれる」と強調しました。

話題となっている生活保護問題の講演に、一般市民も含めて80人を超える参加があり、関心の高さが示されました。



黒川一郎さんから、大橋晃さんへ、バトンタッチ